2012
7
No.34

The Kashiwara Miharibann
かしわら見張り番

発行所 かしわら見張り番

〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX.072-977-8782

処分場跡地譲渡で、柏原市議会「百条委員会」を設置

偽証をすれば、禁固刑も！非常に厳しい処罰が！

柏原市議会はこのたび、竜田古道の里山公園疑惑解明のために、「百条委員会」を立ち上げた。年間2500万円以上かかる公園維持管理費等について、議会が市を追及することになった。

柏原市が行う「当該用地を柏原市に譲渡する」という内容の覚書が交わされたことが、判明致しました。

議会に諮(はか)ることなく、このような取り交わしをされていたことはもちろん、三市の環境事業組合の責務が、柏原市へと移ったこと、今後、柏原市民への負担が生じることなど、これまでの市の行った事務に関し、大きな疑念を抱くと共に、これまでの本会議、委員会等で、明確な答弁が無かったため、議会として地方自治法100条に基づき、調査権を発動出来る100条委員会を設置し、その調査を実施すべきであると議員提案されたものであります。

賛成多数で可決（議長除く）

賛成：公明党、柏原維新の会、市民の会、市民・民主の会、日本共産党

反対：自由民主党政新会、会派に属さない議員

6月定例会概要で、市議会が表明「これまでの市の行った事務に関し、大きな疑念を抱く」

6月の柏原市議会定例会で以下のように、「百条委員会」について決定された。

「処分場跡地譲渡めぐり、百条委員会を設置

柏原市、羽曳野市、藤井寺市、三市のゴミの最終処分場跡地について、平成14年2月18日に三市の環境事業組合とその処分場の所在地である、柏原市雁多尾畑地区との間で、環境事業組合が処分場跡地を公園として整備する覚書が取り交わされていました。

しかし、平成22年10月26日に、三市の環境事業組合と、柏原市との間で、「管理維持は、柏原市が行う」「当該用地を柏原市に譲渡する」という内容の覚書が交わされたことが、判明致しました。

議会に諮(はか)ることなく、このような取り交わしをされていたことはもちろん、三市の環境事業組合の責務が、柏原市へと移ったこと、今後、柏原市民への負担が生じることなど、これまでの市の行った事務に関し、大きな疑念を抱くと共に、これまでの本会議、委員会等で、明確な答弁が無かったため、議会として地方自治法100条に基づき、調査権を発動出来る100条委員会を設置し、その調査を実施すべきであると議員提案されたものであります。

大きな権限を持つ百条委員会 偽証をすれば厳しい処罰

百条委員会とは、インターネットのコトバンク（※）によると、「《地方自治法第100条に基づくところからの通称》地方議会が必要に応じて設置する特別委員会。自治体の事務について調査する。関係者の出頭と証言、記録の提出を請求できる。正当な理由なく関係者が出頭、証言、記録の提出を拒否したときは禁錮または罰金に処することができる」とある。すなわち証人が偽証をすると、禁固の可能性がある厳しい罰則がある。

柏原市以外でも、全国に百条委員会が設置された例は珍しくない。

（※）http://kotobank.jp/word

柏原市長 受注業者と旅行

先日、新聞に大きな見出しで「伊賀市長受注業者と旅行」と掲載された。岡本市長も、柏原新聞、そして、議員の父親であり受注業者D社の関係者と旅行していた。伊賀市長は事実を認め、「軽率だった」と話していたが、岡本市長は開き直り的な態度であった。

平成18年8月に、D社の関係者が所有している産業廃棄物の埋立地（通称東山）を柏原市が購入し、総合スポーツセンターにするためにと長野県に視察。11月には、中国の杭州。12月には、玉造温泉？カニを食べにと3回旅行していた。そのことを19年9月の定例会で追及した浜浦議員に対して、同行者名を実名で、30年来40年来の友人である。何故悪いというような答弁をされた（議事録に記載されている）。公共工事を発注する自治体の長として政治倫理が問われるのではなかったかと思う。その後、柏原新聞による浜浦議員に対する攻撃は、今も続いている。

同行したY氏の関係会社は、前市長の時には、柏原市の公共工事の受注はあまりなかったと聞いている。しかし、岡本市政になり、この業者に公共工事がかなり受注されている。平成21年3月末まで既存業者と交わしていた事業系ごみ収集運搬委託契約を不透明な説明で破棄し、平成20年8月にY氏の関係業者（全て親族）2業者に許可を下した。癒着と疑われても仕方ないのではなかったかと思う。何故、大阪地検がこの業者関係に強制捜査が入ったのか疑問に思う。昨今では、公判維持するためには相当の証拠を必要とするために逮捕に至らない場合もある。平成22年5月には、透明性・経済性を謳いながら家庭系一般廃棄物収集運搬委託を一般入札でなく、7社の指名入札で行い、指名業者としてY氏の関係者を2社選択、この2社が収集区域の50%近くを落札した。本当に透明性があったのか疑問に思う。税金を削減したと吹聴しているが留所山の維持管理費、防災公園の借地料など岡本市政による不透明な税金の使われかたに多くの議員が不信を抱き百条委員会を立ちあげたのだと思う。今後、見守っていくべきである。

伊賀市長 受注業者と旅行

温泉1泊「軽率だった」

伊賀市長 受注業者と旅行

石川の温泉に宿泊 便宜供与は否定

三重県伊賀市の岡本栄市長（68）が2009年9月に、市発注工事で受注業者から便宜を図ってもらったとして、市長に対する不信感が高まっている。

市によると、同社は、内保住長が発注した08年11月から最近までに4件、無行後ケ丹の[illegible]万円の工事を受注している。

は知らなかった」と説明。

入札最低価格 ピタリ

伊賀市長と旅行の業者

08年度公共工事

3176万1975円 的中
4318万3560円 的中
4556万2230円 420円差
6927万3330円 7万1820円差